

「遊離コルチゾール(非抱合型コルチゾール)」 検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。
さてこの度、標記項目につきまして、検査内容を変更させていただきますので、取り急ぎご案内いたします。
誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

対象項目/変更内容

● 536 遊離コルチゾール(非抱合型コルチゾール)

変更内容	新	旧	備考 (総合検査のご案内)
検査項目名	尿中コルチゾール	遊離コルチゾール (非抱合型コルチゾール)	現行試薬の 販売中止
検査方法	CLIA	RIA固相法	
検体量	蓄尿 5.0mL	同左	
基準値 (単位)	4.3~176(μg/day)	11.2~80.3(μg/day)	
報告範囲 (単位)	0.0~99900000(μg/day) (尿量により異なる)	同左	
報告桁数	有効3桁、整数8桁、小数1桁	同左	
備考	酸性蓄尿は不可。 非抱合型コルチゾールの測定 となります。	酸性蓄尿は不可。 トルエン1~2mLを加え、 冷所に蓄尿し、よく混和し 所定量をご提出下さい。	P.42

変更期日

- 令和4年3月31日(木)受付日分より

●遊離コルチゾール(非抱合型コルチゾール)

下垂体から分泌される ACTH の刺激を受けて、副腎皮質束状層より分泌される分子量 362.5 の糖質コルチコイドで ACTH との間にフィードバック関係がある。血中の 90%以上が蛋白との結合型として存在し副腎、肝、腎で代謝を受け、グルクロン酸抱合を受けて、尿中に排泄される。血中半減期は、1.4～3 時間と言われている。副腎皮質機能を知るために行う検査で、原発性（副腎性）、続発性（視床下部性または下垂体性）を含めた副腎皮質機能不全症や、コルチゾール過剰症であるクッシング症候群の診断の指標として有用である。

▼疾患との関連

クッシング症候群、グルココルチコイド不応症、甲状腺機能亢進症（肥満、妊娠後期）、ACTH単独欠損症、ACTH不応症、Addison病、下垂体機能低下症、原発性副腎皮質機能低下症、先天性副腎皮質過形成、続発性副腎皮質機能低下症、慢性腎不全

▼関連する主な検査項目

505 副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)

●参考文献

関口昌江, 他: 医学と薬学69(6):985～991, 2013. (検査方法参考文献)
田中孝司: 日本臨牀 53(増):437～440, 1995. (臨床的意義参考文献)